

地図で遊ぼう

—— 「今昔マップで見る昔の神戸」 を手がかりに ——

街（書店）で見かける地図には、道路地図・市街地図・住宅地図がほとんどを占めているが、それらは地形図^{*1}を基本とし、目的に特化して作られている。

地図への誘い

高校生のときか中学生のときか定かでないが、寺田寅彦^{*2}の「地図をながめて」の一節に

「当世物は尽くし」で「安いもの」を列举するとしたら、その筆頭にあげられるべきものの一つは陸地測量部の地図、中でも五万分一地形図などであろう。一枚の代価十三銭であるが、その一枚からわれわれが学ば学び得るる有用な知識は到底金銭に換算することのできないほど貴重なものである。（中略）

それだけの手数のかかったものがわずかにコーヒー一杯の代価で買えるのである。

とあるのを読んで、当時まだ飲んだことのなかったコーヒーの値段を目安にして金額が書かれていたのを感じた覚えがあります。

地図を楽しもう

地理院地図-地図・空中写真・地理調査

<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>

今昔マップ（表紙） <https://ktgis.net/kjmapw/>

今昔マップ（神戸生活創造センター）

https://ktgis.net/kjmapw/kjmapw.html?lat=34.652481&lng=135.148412&zoom=16&dataset=keihansin&age=0&screen=2&scr1tile=k_cj4&scr2tile=k_cj4&scr3tile=k_cj4&scr4tile=k_cj4&mapOpacity=10&overGSItile=no&altitudeOpacity=2

*1 広辞苑第 7 版によれば 【地形図】土地の起伏・形態・水系、地表に分布する地物の配置などを描いた地図。通常、等高線によって地形を表す。一般に縮尺が 1 万分の 1 から 10 万分の 1 のもので、日本では縮尺 1 万分の 1、2 万 5000 分の 1、5 万分の 1 の 3 種類。【地勢図】縮尺数十万分の 1 程度の地図で、地形のほか交通路・都市・集落・植生・土地利用などの概要を表したもの。日本では国土地理院の 20 万分の 1 図をいう。

*2 寺田寅彦（てらだ とらひこ） 1878-1935 地球物理学者。漱石の門下生でもあり、吉村冬彦の筆名で作品を書いた。数多くの随筆があり、いまでも多数の読者に愛読されている（青空文庫 人物紹介による） 地図を眺めて 初出：「東京朝日」1934（昭和 9）年 10 月 私が読んだのは「天災と国防」（岩波新書 旧赤版 4、1938（昭和 13）年発行）に納められた一節。全文は 青空文庫 で読むことが出来る。 https://www.aozora.gr.jp/cards/000042/files/2508_10272.html